

## 更新について

- ▶産後ケア実務助産師研修修了者の認定期間は5年間としています。
  - ▶5年ごとの更新制とすることで、産後ケアに関わる助産師が自己の知識や技術をブラッシュアップし、より一層産後ケアの専門性を高めることを目的としています。
  - ▶更新年は、認定期間の最終年にあたります。
- ※更新方法については更新年度の産後ケア実務助産師研修申請の手引書でご確認ください。

## 更新要件

- ▶必須研修は6時間となります。
  - ▷学習項目①助産師に関するガイドライン、④地域における保健指導の実際、⑦母子保健事業・施策、⑨女性のメンタルヘルスとその対応、各々1.5時間とします。
  - ▷学習項目④は演習項目が必須のため、GW、個人ワーク、ロールプレイングなどを実施している対面型やライブ配信の研修とします。
- ▶選択研修は9時間となります。学習項目から自由に選択します。
- ▶研修は更新までの5年間で受けることができます。
  - ▷2019年度に産後ケア実務助産師研修修了者となった者は2020年4月1日～2025年3月31日までの研修が対象になります。
  - ▷2020年度に産後ケア実務助産師研修修了者となった者は2021年4月1日～2026年3月31日までの研修が対象になります。

## 【指定の産後ケア研修：更新】

学習項目		学習内容	必須研修	選択研修
①	助産師に関するガイドライン	産後ケア業務に関連したガイドラインの内容とその根拠等を理解する。	1.5	①～⑩の学習項目から自由に選択
②	産後の母親のフィジカルアセスメント	産後の母親のこれまでの妊娠分娩の身体的経過やフィジカルアセスメント、起こりやすいマイナートラブルなどについての知識やアセスメント・支援技術を学ぶ。	/	
③	乳児のフィジカルアセスメント	分娩施設退院後の新生児(ハイリスク児も含む)から生後1年までの乳児のフィジカルアセスメント、起こりやすい異常についての知識やアセスメント技術などを学ぶ。		
④	地域における保健指導の実際(演習項目:GW、個人ワーク、ロールプレイングなど)	対象者への接遇の基本、対象の状況をアセスメントするための面接方法、アウトリーチ型産後ケア実施に係る家庭訪問支援の留意点などを学ぶ。また、事例検討などを通して支援の要点を学ぶ。産後ケアの記録の書き方や報告様式、連携のあり方について学ぶ。	1.5	
⑤	乳児の成長・発達に関する診断と技術	分娩施設退院後の新生児(ハイリスク児も含む)から生後1年までの乳児の発育・発達(運動、情緒、ことば、社会性なども含む)に関する知識を学ぶ。また、発育・発達を促進する技術(あそびも含む)を習得する。	/	
⑥	母乳育児支援	母乳育児を支援するための根拠に基づいた知識を確認する。特に退院後の支援(トラブルを含む)に必要な知識・技術を習得する。		
⑦	母子保健事業・施策	子育て世代包括支援センターの活動やそれに係る事業等を含む、産後ケアや育児支援に関連する母子保健行政や施策の知識を学ぶ。行政の動きを踏まえ、産後ケアを実施するうえで必要な経営管理に関する知識を学ぶ。	1.5	
⑧	子育てに関する支援	子育てに関する支援の実際を学ぶ ・ペアレンティング(親業) ・集団型デイサービス ・多胎 など	/	
⑨	女性のメンタルヘルスとその対応	産後のメンタルヘルスに係る基本的知識を学ぶ。また、産後1年という期間を踏まえ、産後うつ予防、早期発見のための対応について学ぶ。	1.5	
⑩	児童虐待防止に関わる支援	児童虐待防止の支援のあり方について学ぶ。	/	
合計			6H	9H